

● 鍼灸

昨日より、TS-1 開始。

「TS-1 の副作用で、午前中吐いてしまって。その後しんどく
昼食も食べていない。それに膝の裏がとても重い。右だけ
なんです。お腹は便が出たのでスッキリしてます」

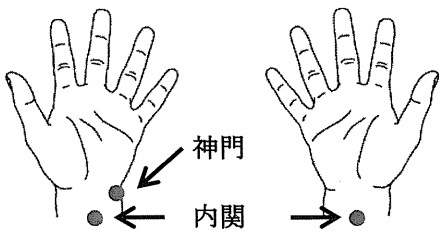
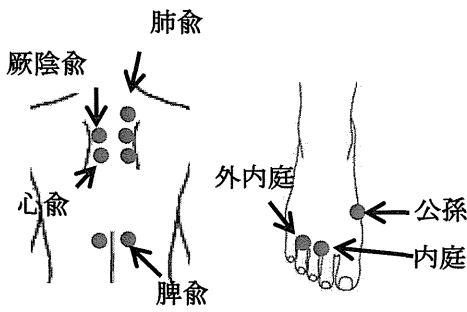
心エコー1.84 cm とやや増量していた。

脈診：数、右関上滑、左尺中弦。

舌診：淡紅、厚膩苔（褐色）。

治療部位：〈毫鍼〉内関、左神門、厥陰俞、心俞、右肺俞、右内庭、右
外内庭、〈鍔鍼〉右公孫、脾俞を行った。

※この頃から、「歩きたいから、リハビリをしたい」と医師に訴えるよ
うになるも、9 診目まで TS-1 副作用により食事が摂取できない状態が
続く。



8 診目

● カルテ

8 時、「食欲ないです。食べたらずきそうなので心配です」

9 時、TS-1 内服から摂取量低下、継続困難か。

● 鍼灸

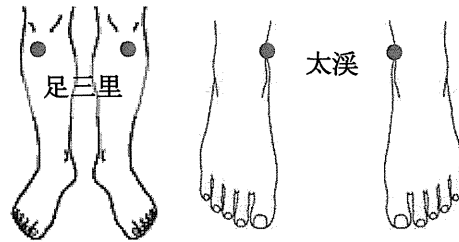
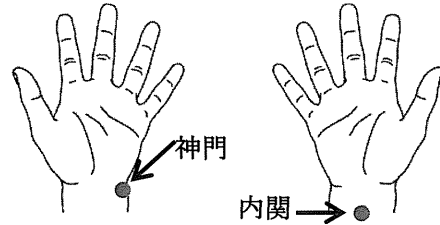
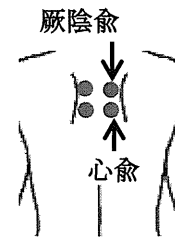
「やっぱり、両方の足が動かない…重いし、浮腫んでる感じ
…」

切診：厥陰俞・心俞硬結圧痛、左神門軟弱、右内関硬結。

脈診：滑（脾虚）。

舌診：淡紅、厚膩苔

治療部位：厥陰俞、心俞、左神門、（鍔鍼 銅）足三里、太溪、（円皮
鍼）右内関



9 診目

● カルテ

8 時「あくびした時に胸がえらくなって、息ができなくなるよ
うな感じがします」朝 4~5 回同じような症状があったとのこ
と。

● 鍼灸

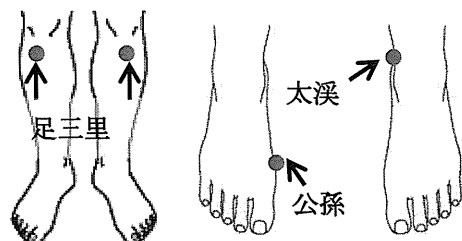
「耳が癌治療を行い始めたころから聞こえにくくなった、今
日耳鼻科の先生にお願いしたら『仕方がない』と言われてし
まった。鍼で何とかありませんか？」と追加依頼があった。

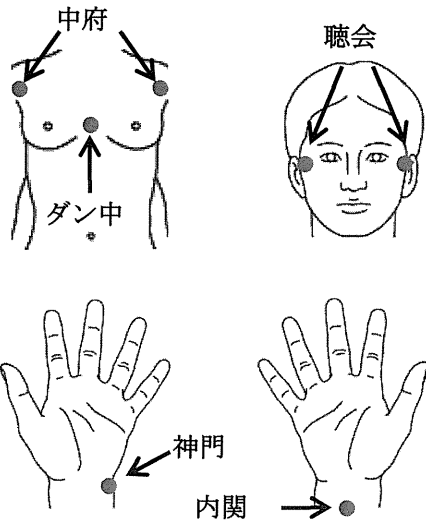
切診：内関緊張圧痛、右公孫緊張、左太溪緊張、右太溪軟弱、
足三里硬結、聴会圧痛、右行間圧痛。

脈診：滑、数。

舌診：淡紅、黄苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉足三里、右内関、左神門、右公孫、右行間、左太溪、
〈鍔鍼〉ダン中、中府、〈円皮鍼〉聴会を使用した。





10 診目

- カルテ

14 時「排便ないとしんどいです。食事食べにくいです」

- 鍼灸

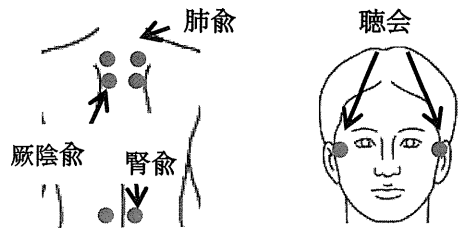
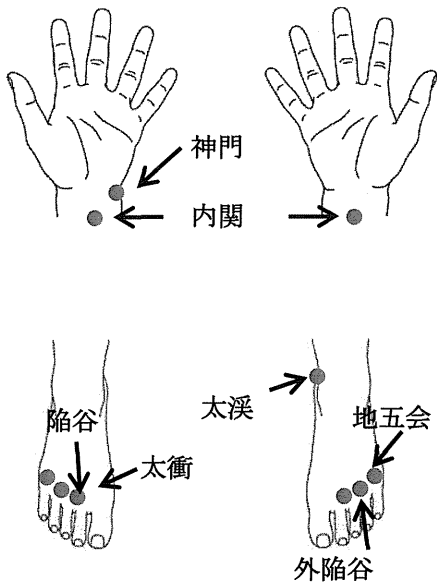
家族より「昨日の夕方スイカを食べて吐いてしまったけれど、今日は朝と昼の2回に分けてサンドイッチを食べることができてます」嘔吐もなく経口摂取ができた。

切診：右太衝表面緊張、胆経緊張、陷谷発汗、右期門圧痛、右章門緊張圧痛、左太溪緊張、交信緊張。

脈診：やや滑、数。

舌診：淡紅、薄白苔。

治療部位：〈毫鍼〉右太衝、陷谷、外陷谷、地五会、左太溪、右内関、左神門、左外関、右期門、右章門、〈鍚鍼〉肺俞、厥陰俞、腎俞〈円皮鍼〉聴会、俠溪を使用した。



11 診目

- カルテ

9 時「口が渴いています」

- 鍼灸

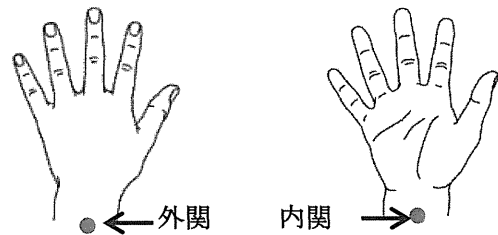
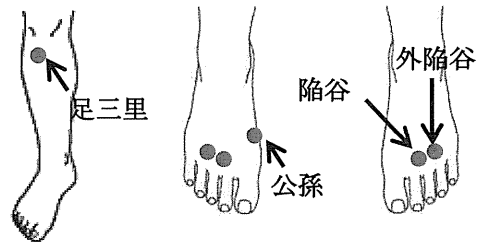
労作時に呼吸苦が増悪している。

切診：右内関緊張、右公孫緊張、左外関緊張、右足三里硬結、右太衝緊張。

脈診：滑、数。

舌診：淡紅、無苔。

治療部位：〈毫鍼〉右内関、左外関、陷谷、外陷谷、右公孫、右足三里を使用した。



12 診目

- カルテ

10 時、「歯磨き、自分でできている」

11 時、「寝返りや、体を動かすと息がゼエゼエあります」

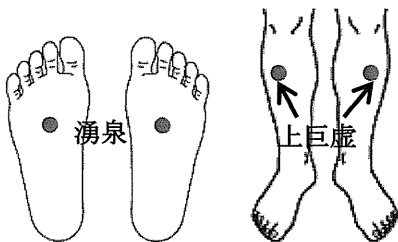
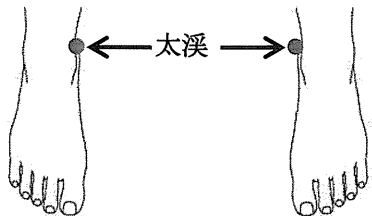
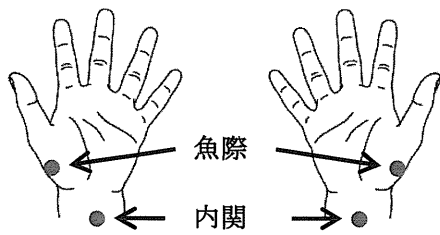
- 鍼灸

体調が悪化。呼吸も荒く、声掛けに対してはうつすらと目を開けて反応する程度になり、脈も散脈が表れていたため、医療スタッフに図の通りの（公孫～湧泉にかけての）部位を軽く按じるよう指導。

脈診：やや散。

治療部位：〈毫鍼〉内関、上巨虚、太溪、〈鍔鍼〉湧泉、魚際、〈円皮鍼〉

太溪を使用した。



13 診目

- カルテ

8時、「しゃべる時に少し息がきれます」

- 鍼灸

「朝は抜いて、昼はおかずだけ、もどすことはなかったです。

便は出ました。足を動かすと右足にこむら返りします」

体動時に呼吸苦の悪化が認められる

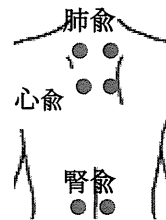
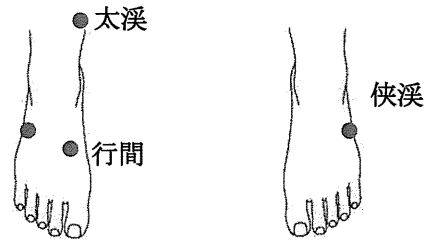
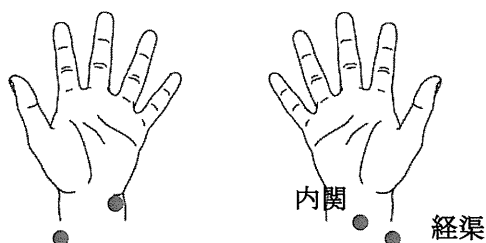
切診：右内関・胆経緊張、左太溪・神門軟弱、経渠圧痛、肺

俞・心俞軟弱

脈診：弦・数・腎無力。

舌診：淡紅、薄白苔。

治療部位：〈毫鍼〉右内関、左神門、侠溪、左太溪、右三陰交、右期門、
右行间、〈鍔鍼〉肺俞、心俞、腎俞、〈円皮鍼〉右内関、経渠を使用した。



14 診目

- カルテ

7時、「呼吸しんどいです」

15時、「ちょっと苦しい」倦怠感あり、訪室した際、入眠されている事が多い。

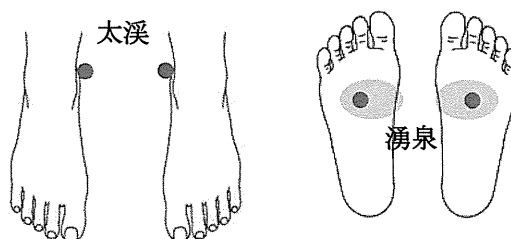
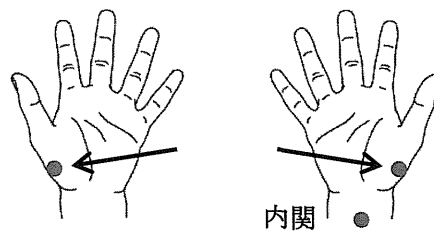
- 鍼灸

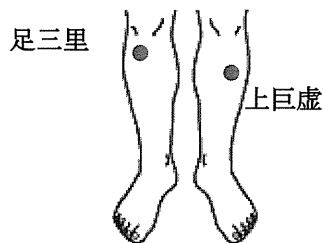
呼吸しんどく、目を閉じられている。声掛けにうつすらを目を開けて反応する。

切診：太溪軟弱、左足三里～上巨虚まで硬結。

脈診：滑（やや散）。

治療部位：右内関、左上巨虚、右足三里、太溪、〈鍔鍼〉公孫～湧泉・
魚際、〈円皮鍼〉太溪





15 診目

- カルテ

8 時、「むせた時に、咳こんで苦しくなります」

12 時半、幻覚あり、右眼瞼に浮腫あり。

- 鍼灸

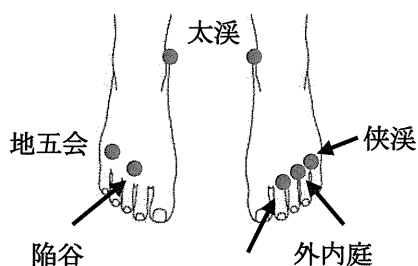
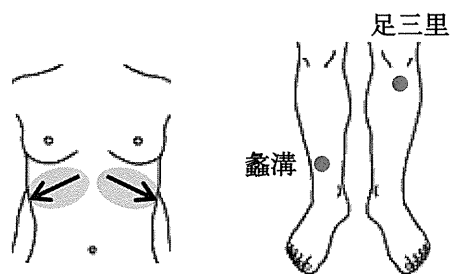
「呼吸しんどい（おむつの交換時など）」

脈診：胃の弦。

舌診：淡紅、無苔、潤。

食事：食べれずアイスか素麺少量のみ。手に軽度冷え。

治療部位：〈毫鍼〉右蠡溝、太溪、右内関、左足三里、右陷谷、右外陷谷、右地五会、〈鍔鍼〉腹部散鍼、左内庭、左外内庭、左侠溪を使用した。



16 診目

- カルテ

10 時半、「じっとしていてもしんどい。胸がドキドキしたりはありません」

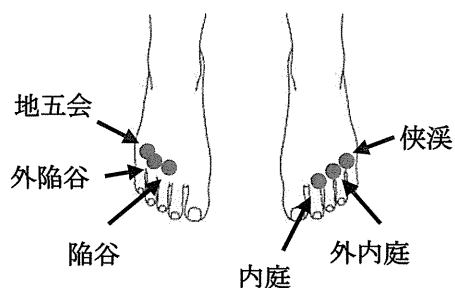
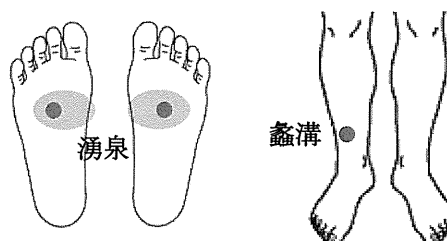
16 時、「少し胸がしんどい気がします」

- 鍼灸

声掛けに開眼→「呼吸は昨日より…マシだけど…今は…体が…だるい」→閉眼

脈診：微弦・脾滑

治療部位：蠡溝、右内関、（鍔鍼）公孫～湧泉、左内庭、左外内庭、左侠溪、右陷谷、右外陷谷、右地五会を使用した。



17 診目

- カルテ

5 時、上肢浮腫を認める。オムツ内に多量失禁、便失禁あり。

19 時半、比較的多量の暗紅色の下血あり。痛みの強い時は、塩モヒ 1ml/h を使用。

- 鍼灸

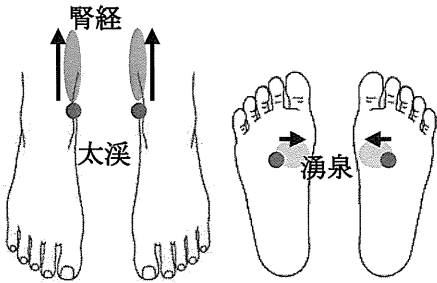
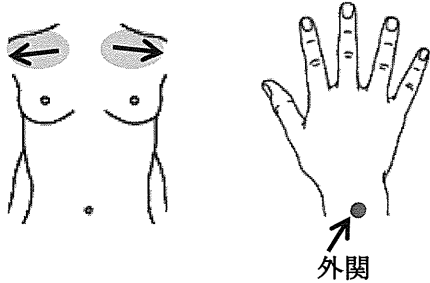
全身に浮腫、ガスは出ている。

切診：太溪軟弱。

脈診：滑。

舌診：紅舌・黄苔。

治療部位：〈毫鍼〉太溪、右内関、左侠溪、〈鍔鍼〉、胸部、腎経、湧泉、〈円皮鍼〉太溪、右外関を使用した。



18 診目

- カルテ

16 時、塩モヒ 0.2ml に減量。

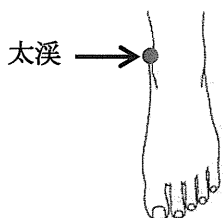
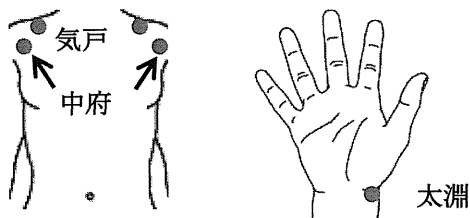
17 時半、塩モヒ 0.1ml に減量。

意識レベル低下しており、反応があまりない。

- 鍼灸

16 診目の鍼灸治療およびリハビリ後、下血。家族が心配されたが、刺激量には細心の注意を払っているため鍼灸による下血ではないことを説明。

治療部位：〈鍍鍼〉気戸、中府、右太溪、右太淵。17 診目後日からモルヒネを開始。



死前期（16～17 診目）にはコミュニケーション不可能な状態であったが「ここで鍼をしてもらって凄く楽しみにずっとしていたから、最後までやってください」と家族の希望があり継続。

【転帰】

鍼治療は全 18 回行い、最終治療 3 日後に死去された。

【まとめ】

心嚢液貯留に対して鍼灸治療を開始したものの、心嚢液に対しては改善は見られなかった。癌の状態が増悪したため、そこまでの改善にはつながらなかったと考える。しかし、心嚢液貯留が増悪していくのとは反対に患者本人の体調はよく、数回ではあったが医師が TS-1 使用に踏み切れるまで体調が改善したことは事実である。また今回、患者家族・医療スタッフともに口にするのが「認知症」に対してである。患者は多発脳転移もあり、それまでの会話は前日の会話もわずれ、次の日には全く異なったことを言う、また顔を覚えることもできず、医療スタッフが「誰かわかる？」と毎回聞くといった状態であった。今回、鍼灸治療を開始と同時に顔を覚え、会話も成り立つ状態になった。このことで、患者家族からは「頭がわけわからなくなっていたのに、会話がちゃんとできるようになって、本当にうれしく思います」というコメントがあった。この症例からは患者と患者家族の最後の時間をその人らしく送ってもらえたという非常に有効であったケースといえる。

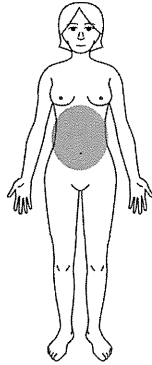
【症例】64歳、女性

【傷病名】

「卵巣癌」、「子宮体癌」、「腹水貯留」、「イレウス（癌性腹膜炎による）」

【治療目的】「癒着性イレウスによる腸動時痛」

癌性腹膜炎による癒着があり、便秘傾向であるが、便を出すために下剤を使用すると激痛が走り、オキシコドン塩酸塩を使用→副作用による便秘→下剤と悪循環が繰り返されていた。そこで、オクトレオチド酢酸塩注射液使用と同時期に痛みを緩和させる目的で鍼灸治療が依頼された。



【既往歴】

卵巣癌再発、癌性腹膜炎、腸閉塞

【現病歴】

癌性腹膜炎による腹水貯留は以前からあったが、6月頃から、腹部膨満感を訴え、来院した。入院4～5日前から膨満感増悪。排便は少量。腸閉塞の疑いもあり、入院となった。

【所見】

初診訪室時、「吐きそうだ」と受け皿をもってベッドに横になっていた。足先は抗がん剤治療を受けたころからしびれ始め、現在も消失する事無く存在している。

切診：右足三里硬結、右公孫緊張、太溪軟弱、右太衝緊張、左太衝軟弱・圧痛、右俠溪圧痛、右内関緊張、胸脇苦満。

脈診：滑・虚（細）。 舌診：淡紅、薄白苔。

【東洋医学的弁証】

肝胃不和、血虚、気滞血瘀

【方法】

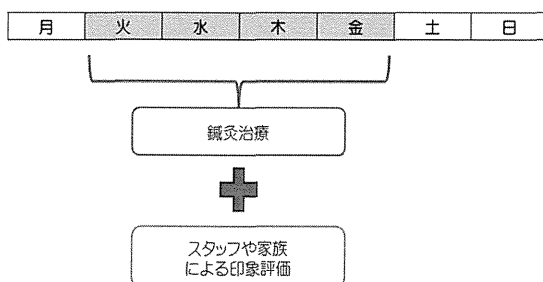


図1. 治療の流れ

週4回（火曜～金曜）の治療は患者負担のかからないよう、10分程度の治療を行った。

肝鬱に対する治療を目的に行間、期門、章門、内関を中心に使用した。また、状態に応じ鍼鍼の種類を使い分けて行った。

【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度の刺鍼で行う。

円皮鍼：セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用した。

鍔鍼：補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用した。

【評価】

痛み評価として、当初VASを使用予定であった。しかし、見当識障害および脳転移の可能性があったため、VAS評価、NRS評価に加え、患者コメントと、医師、医療スタッフの印象評価をカルテより抜粋し、併せて総合評価とした。

【経過】

1診—1日目

● カルテ

1時、「お腹痛い。多分便が出てないからだと思う」

4時、「イレウスの時みたいにここが痛い。膨満感はなくなっただけだね」プリンペラン更新時に胸やけ、嘔気、腹部痛あり。

ガーグルベースン一杯に嘔吐あり。

12時半、「痛くて仕方がない」（NRS：8～10）

21時、「ペンタジンしてもらったのに、また痛くなってきた」（NRS：5～6）

1診目

● カルテ

鍼灸治療開始と同時にイレウスに対し、オクトレオチド酢酸塩注射液を使用。オクトレオチド酢酸塩注射液は、緩和医療における消化管閉塞の消化器症状の改善を目的に使用されている。（しかし、本症例は癒着による痛みがある）

20時、NRS7～8の痛みを訴え、レスキューを使用した。

● 鍼灸

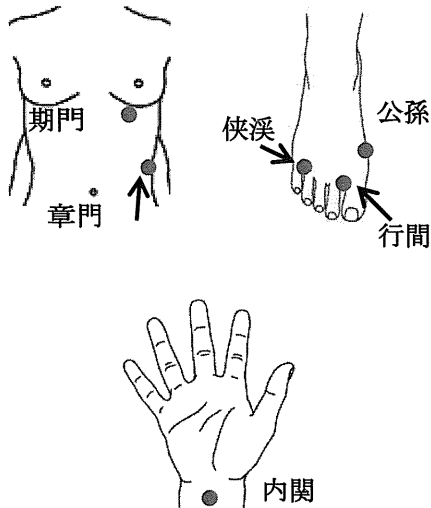
オクトレオチド酢酸塩注射液投与から30分経過したところで鍼治療を行ったが、「吐きそうだ」と受け皿を手にベッド上で呼吸を荒げていた。鍼治療直後、「薬か鍼かわからんけど、ほ

んの少しだけ、マシかな…でも、吐き気はある」という状態であった。

脈診：滑、虚（細）。

舌診：淡紅、薄白苔。

治療部位：〈毫鍼〉右行間、左期門、左章門、右内関、〈鍔鍼〉右公孫、右侠溪、〈円皮鍼〉右行間、右内関に行った。鍼灸治療が初めてであったため、本数を少なくするために鍔鍼を使用した。



2 診目

● カルテ

4時半、「22時～1時まで眠れた。痛みは薬を使うほどじゃない」

8時、痛みを訴えるもペンタジン 20ml も投与していないが、症状緩和している。

10時半、8時にペンタジンをほとんど使用していないが痛みを訴えない。

15時、痛み VAS55mm。午後より痛みが増悪している。

16時、「ガスがよく出るんです」

19時、「痛い…」レスキュー使用。

● 鍼灸

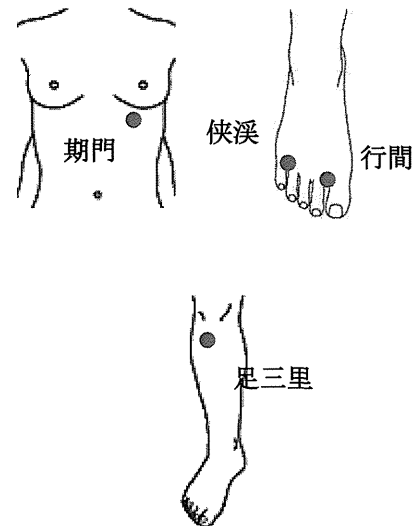
訪室時昨夜の状態とは思えないほど落ち着いていた。「昨日（夜）はガスが20回近く、ゲップもでてね、「効果があるんじゃないか？」って看護師さんに言われたのよ。私はまだ1回やし、分からんけど、そう（効果があると）思う」とのコメントを得られた。また、ガスが出る際、腸蠕動しても今までの痛みではなく、そんなに痛みは感じることはなかった。

切診：左期門圧痛、右足三里深部硬結、右公孫緊張。

脈診：滑、細。

舌診：淡紅舌、薄白苔。

治療部位：右行間、右侠溪、左期門、〈鍔鍼〉右足三里、〈円皮鍼〉右侠溪、右行間を使用した。



3 診目

● カルテ

4時、「痛みはないよ。NRS:2くらい」

5時、「寝たり起きたりして、気持ちは前向きなんよ」(VAS:35mm)

19時半、「60も70も痛くなりたくないから、使ってください」

予防的にレスキューを使用した。

● 鍼灸

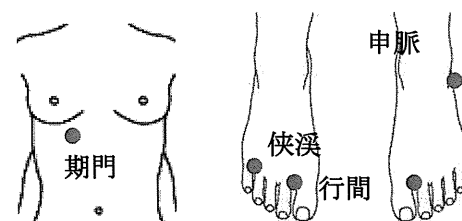
「ガスもゲップも出ています。前は全然出てなくて…今は内臓がちゃんと動いている気がします」治療前 VAS ; 17mm（以前は 80mm 近い）まで疼痛コントロールができていた。この回より、腹部疼痛の他に 20 年以上前に捻挫した後遺症を気にするようになったため、足陽明経の追加治療を開始する。

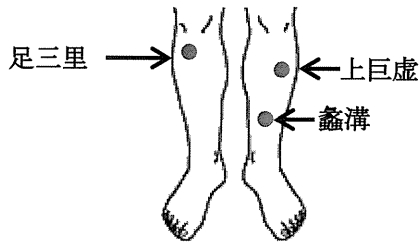
切診：右足三里硬結、右公孫緊張、右期門圧痛、左申脈圧痛。

脈診：弦、細。

舌診：淡紅、薄白苔。

治療部位：〈毫鍼〉行間、右侠溪、右足三里、左蠡溝、右期門、左上巨虚、左申脈、〈円皮鍼〉期門を使用した。





4 診目

- カルテ

4 時、「NRS:4~5 ぐらいかな。少し胸やけする」

19 時、「NRS:0~1 くらい」夕食全量摂取。

- 鍼灸

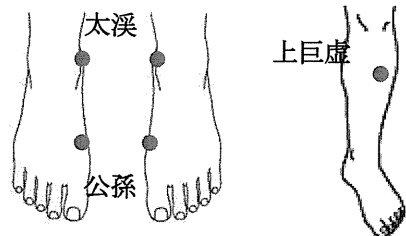
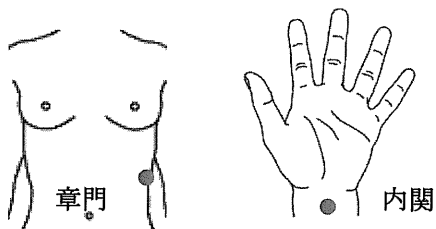
「痛みはないですが、痛くなったらいやなので薬を飲んでいきます。以前は起き上がれないくらい痛かったです」現在は痛みが緩和されているが、午前 2~3 時に痛みが増悪したため、オキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）を使用した。

切診：左内関硬結、右公孫表面軟弱深部緊張、左足三里～上巨虚軟弱。

脈診：右関上微弦。

舌診：淡白、胖大、舌下静脈怒張、白黄膩苔（舌辺剥落）。

治療部位：〈毫鍼〉左内関、公孫、左章門、左上巨虚、〈鍔鍼〉復溜を使用した。



5 診目

- カルテ

1 時半、排便あり（普通便）

7 時半、「便ができてない感じ。でも痛みはそれほどない」

VAS：1~2mm。

16 時半、VAS：27mm。

21 時半、VAS：40mm。予防的にレスキューを使用した。

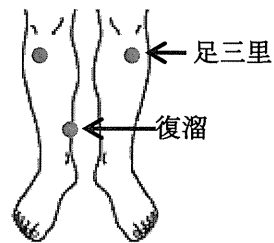
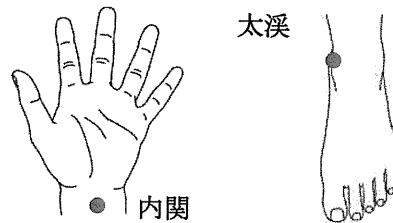
- 鍼灸

昨夜は眠れず、訪室時眠っていた。声掛けすると一度開眼するも、すぐに閉眼。体動が激しいため、単刺（鍼を刺してすぐ抜く手技）にて行った。

切診：太溪表面軟弱深部緊張、足三里軟弱、右期門圧痛、右内関緊張。

脈診：虚、沈、弦。

治療部位：〈毫鍼〉右内関、左太溪、足三里、右復溜、〈円皮鍼〉内関を使用した。



6 診目

- カルテ

7 時、「今日は痛くない」（VAS：4mm）

8 時半、「ちょっと痛くなってきた」（VAS：33mm）

20 時、「胃がつかえた感じ」嘔吐 2 回。

22 時、「麻婆豆腐の刺激が強かったかも」

- 鍼灸

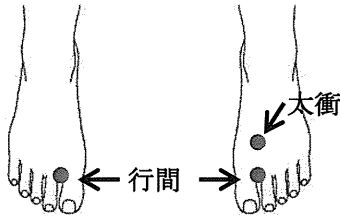
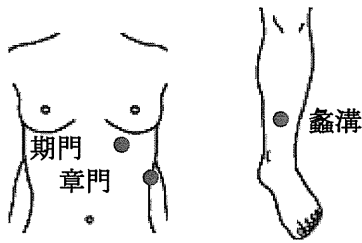
「見舞客が多かった為、繰り返しギャグアップを行ったことで、腹部に痛みが出始めてきた。薬を飲むほどでもないのので我慢している」とのこと。

切診：行間圧痛、左足三里硬結、右蠡沟軟弱、左章門緊張、右内関軟弱。

脈診：右関上滑。

舌診：淡白、白黄膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉右内関、左蠡沟、行間、左章門、〈円皮鍼〉左期門、左章門、左太衝、右行間を使用した。



7 診目

- カルテ

2 時、「こみあげてきて、吐いたら楽になりました」
午前中、外出。痛みなし。

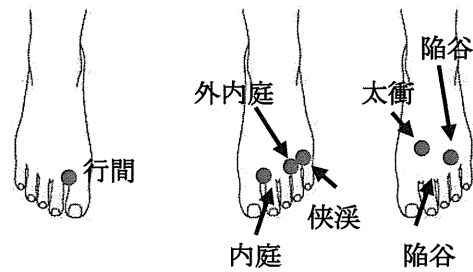
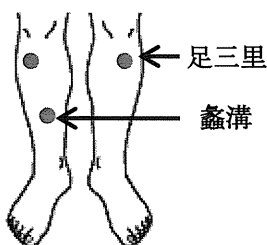
- 鍼灸

「調子が良かったので、麻婆豆腐を食べたら刺激が強かったのか吐いてしまった。それより、昨夜気づいたんですけど、なんか足の先がおかしいなあ、おかしいなあと思っていたら、足のしびれが弱くなって指の感覚が戻ってきたんです。もう、嬉しいことです」とのこと。また、外出ができない状態と考えられていたが、本日午前中に家族と一緒に京都市内までドライブに行けたと喜ばれていた。

脈診：滑。

舌診：淡白、白黄苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉足三里、右蠡溝、行間、左足の痺れに対し左内庭、左外内庭、左侠溪、〈円皮鍼〉左陷谷、左外陷谷、左侠溪、左太衝、右行間を使用した。



7 診+1 日目

- カルテ

2 時、4 時、軽度嘔吐、各 2 回。

5 時半、排便（バナナ 1 本）。

14 時、足あげ運動をされている。（痛み VAS : 7mm）

20 時、「しわしわと、30~40mm 位の痛み」

7 診+4 日目

- カルテ

血便を確認。

7 診+5 日目

- カルテ

「痛い、えらい」夜間、胃液状少量嘔吐される。

7 診+6 日目

- カルテ

痛みの増強あり、ペンタジンを使うも効果ない様子。

【転帰】

鍼治療全 7 回行った。

最終鍼灸治療 5 日後、死前期にはいり、寝たきり状態になり、6 日後に死去された。

【まとめ】

本症例は治療開始前、外出すら不可能に近い状態ではあったが、鍼治療を併用介入させることで一時的でも状態がよくなり、家族と長時間ドライブできる時間が提供できた。このことから、治療効果が有効であったことがいえる。

最後に、患者家族のコメントから「帰れるような状態の時に、家に一泊でも連れて行ってあげればよかった」と悔いの残るコメントがあったこと、生前患者本人から「帰りたいけど、こんな状況では家の者に迷惑をかけてしまう」というコメントから、患者本人のみならず、患者家族のケアの一環として鍼灸治療を介入し 1 時間でも、自宅に戻

れる状態をつくることが緩和ケアの一つではないだろうかと考えさせられる症例だった。

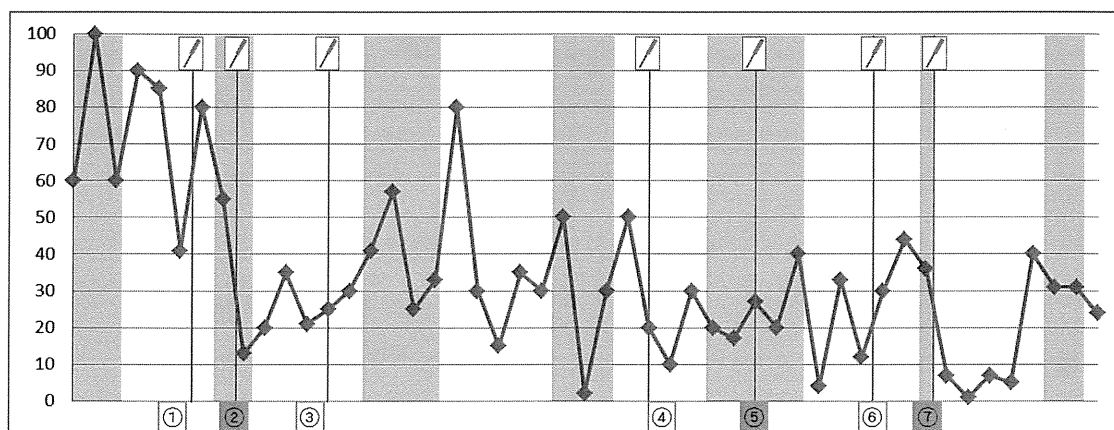


図.1 医療スタッフによる痛みスケール (VAS)

下の①～⑥は治療回数を示し、赤い線は治療介入のタイミング。仕事に支障のないよう聴取できる範囲で行った。そのため、日によって回数異なる。突発的な痛みがあるが、痛みは治療介入前と比べ、低くなっているといえる結果が示された。

【症例】73歳、男性

【傷病名】膀胱癌（StageIV 摘出手術後）

【治療目的】「会陰部痛」

入院期間中、会陰部に痛みを訴える。オキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）の服薬効果が切れると痛みは再発するとのことだった。しかし、医師からは画像所見含め検査では癌が残存している可能性は極めて低く、服薬量が軽減しないため医師から依頼を受けた。

【既往歴】膀胱尿道全摘、回腸導管造設術

【現病歴】

X-1年8月中旬、上記手術後の経過観察中であつた。しかし、下旬になりウロバックに尿を認めず、尿閉および腎盂腎炎を疑い入院となった。入院中会陰部の痛みを訴えるようになる。癌残存は認めないため、癌性疼痛ではないと考えるも鎮痛薬の効果が不十分であつたため、鍼灸併用治療の依頼となった。

【投薬】レスキュー：オキノーム散 5mg×2包

【所見】

会陰部の奥の方がズキズキしたような重い痛み、または引き裂かれるような痛みがある。以前は夜間に痛みが集中していたが、最近は昼間にも痛みが起こっている。足背浮腫、母趾・小趾爪白癬。睡眠：痛みで2時間おきに起きる時がある。切診：太衝軟弱、太白軟弱、公孫軟弱、三陰交軟弱（右>左）、陥谷～地五会膨隆、丘墟膨隆。舌診：淡白、胖大、嫩舌診、厚膩苔。

【東洋医学的弁証】 気滯血瘀、肝胃不和

【方法】

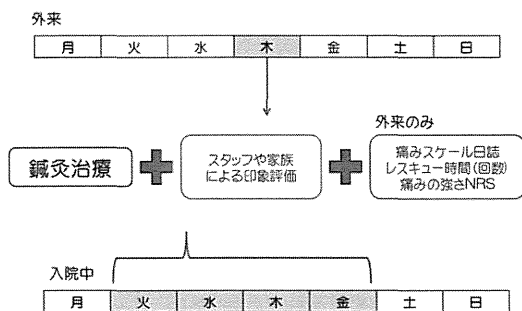
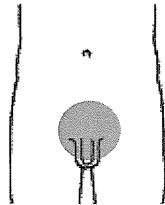


図1. 鍼灸治療の流れ



入院期間中は週4回（火曜～金曜）の毎日患者負担のかからないよう、10分程度の治療を行った（1～5診目）。退院後、外来にて週1回（6～11診目）、その後医師との相談により2週に1回（12診目～）のペースで外来治療を行った。

【評価】

医師、医療スタッフ、家族の印象評価はカルテより抜粋。患者本人からはコメントおよびレスキューの使用頻度を使用した。痛みは入院期間中、VASで行い、退院後は患者本人にレスキュー服薬時の時間と共に記入してもらうためNRSにて行った。

【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度、陰部神経付近を目標に陰部神経には直径0.25mm×90mmを85mm刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用。鍍鍼は補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用した。

e-Q（電子温灸器）：45±2℃、5秒設定にて使用した。

【評価】

入院期間VASを使用。外来では患者自身に痛みチェック表にて記入してもらうため、NRSで行った。また、印象評価として医師、医療スタッフおよび患者家族のコメントをカルテより抜粋した。

【経過】

1診-2日目

● カルテ

5時、「いたたたた…おちんちんの奥が痛い」（レスキュー服薬）

7時、「あかんわ、どうも痛い。吐き気止めは飲んだで」

10時、「痛い」（NRS：10）

11時半、トラマールは効果明らかではなく、中止する。

12時半、「良いとは言えない。寝付きは悪い、痛みのせいもある。2時間おきの痛みが昨夜から4時間おきになった。あんまりよけ飲むのもね。副作用もあるし、増やすのもなあ…」

13時、「えずくのは一緒やで」食事30分前ノバミン服薬するも嘔気変わらず。昼食は全量摂取する。

レスキュー服薬回数全8回。

1診-1日目

● カルテ

3時、「10以上や!!」(レスキュー服薬)
 5時半、「痛みがかなり強くなってからじゃ効きが悪い。今は7か8くらい」
 10時半、「痛みはゼロやな」
 11時半、「痛くなってきた。7くらい」
 レスキュー服薬回数全6回。

1 診目

● カルテ

0時半、「痛いです」
 3時、「痛い。(薬の効果が)2時間半か〜。(痛みは)10や」
 6時、「3時間やなあ。また痛くなってきたわ」
 14時、「今は痛くない。今日はどっさり便がでたし、スッキリしたわ」
 15時半、「今は7くらい。10まで痛くなったら嫌やから飲む」
 22時半、「痛い」(VAS:60mm)
 レスキュー服薬回数全8回。(治療後2回)

● 鍼灸

会陰部の奥の方がズキズキしたような重い痛み、または引き裂かれるような痛みがある。以前は夜間に痛みが集中していたが、最近では昼間にも痛みが起こっている。治療時はオキシコドン塩酸塩(徐放性の錠剤)10mg服薬直後だったため痛みはVAS:0mm。

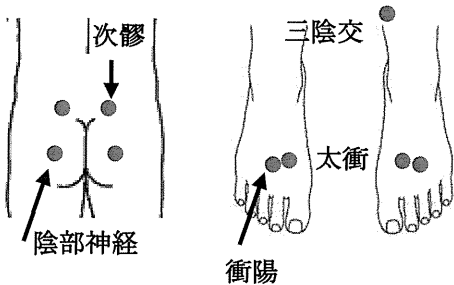
望診:足背浮腫、母趾・小趾爪白癬。

切診:太衝軟弱、太白軟弱、公孫軟弱、三陰交軟弱(右>左)、
 陥谷~地五会膨隆、丘墟膨隆。

舌診:淡白、胖大、嫩舌、厚膩苔。

睡眠:痛みで2時間おきに起きる時がある。

治療部位:陰部神経、太衝、次膠、衝陽、左三陰交。治療直後、違和感なく終了。



2 診目

● カルテ

4時半、「痛い」(VAS:83mm)

7時、「ちょっと楽になっていたけど、まだ痛いな」(VAS:80mm)
 11時、「今日はちょっと(痛みの間隔が)あいてるな」(VAS:0mm)
 12時半、「鍼灸効いとるな」
 16時、「痛みない」(VAS:0)
 20時、「痛くなってきたわ」(VAS:59mm)
 22時半、「あれから全然、痛ないわ」(VAS:0mm)
 レスキュー服薬回数全3回(治療後1回)

● 鍼灸

「朝7:00に起床してから7時間経過するも痛み止めを飲んでいません。痛いよりも刺した部分が痒くなったから、痒み止め貰いそうになったわ」と笑いながら話された。また、医療スタッフからも、「夕方から鍼灸師さん来てくれるって話したんですけど、午前中からずっと『まだ来んのか』って探し回ってました」と直接告げられた。

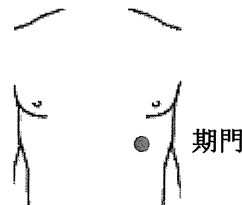
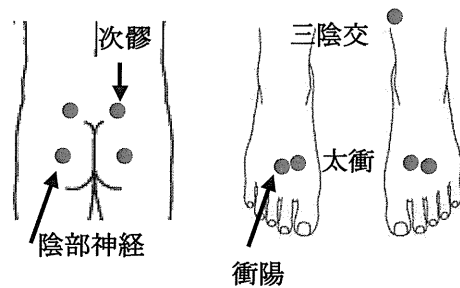
望診:足背軽度浮腫。

切診:胸脇苦満。引き裂かれるような痛みではなくズキズキした痛み(少し重い痛みもある)のみとなる。

脈診:弦、左関上やや滑。

舌診:淡白、厚膩苔、舌下静脈怒張、胖大。

治療部位:前回の治療部位に加え、左期門を追加した。



2 診+1 日目

● カルテ

2時半「痛み止めください」(80mm)
 6時、71mmの痛みを訴える
 10時、「痛み止めおくれ!」(80mm)
 18時、「今は痛くない」夕食も主食10割、副食6割食べる。

19時、「痛み止めください」(71mm)

19時半、「痛み止め飲んだら、ムカつきが出ました」

レスキュー服薬回数全5回

2診+2日目

● カルテ

2時、「痛いんや」(VAS:72mm)

7時、「痛み止めください」(79mm)

14時、「7時から痛くない」(VAS:0mm)

15時半「痛いです」(VAS:78mm)

16時、前回の痛みを訴えた20分後には面会人とラウンジで話している。

19時、「痛み止めくれ」(VAS:79mm)

23時半、VAS:80mmの痛みを訴える

2診+3日目

● カルテ

4時、「早めにのむわ。あーいた」(VAS:70mm)

7時、「うえっ、うえっ」空えずき。

10時、「痛み止めくれ」

13時、「鍼してもらってから痛みも良くなってきてる感じ。前やったら、2時間おきに飲んでたんやけど、飲む感覚が長くなってきてるもんな。鍼の効果やな」

14時、「ギューーと痛い」(VAS:82mm)

19時、「ギューーと痛い」(VAS:80mm)

レスキュー4回(治療後1回)。

3診目

● カルテ

0時、「痛みどめください」(VAS:80mm)

6時半、「痛くなってきた」(VAS:80mm)

11時、「今はゼロや」(VAS:0mm)

14時、「前立腺が痛い。飲めたけど、吐き気する」

17時半「今までなら2~3時間だったけど、鍼してもらって、4~5時間に間隔あいた。でも、10時間あく時もあるし、色々や」

18時半、「痛み止めくれ」(VAS:80mm)

23時、VAS:79mmの痛み

レスキュー服薬回数全6回(治療後3回)

● 鍼灸

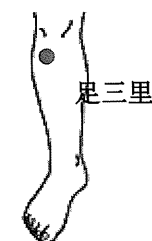
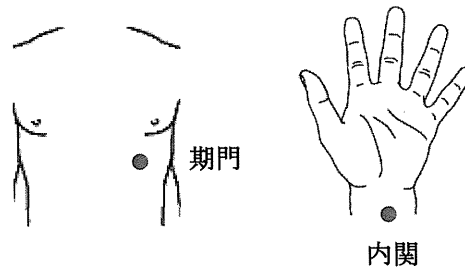
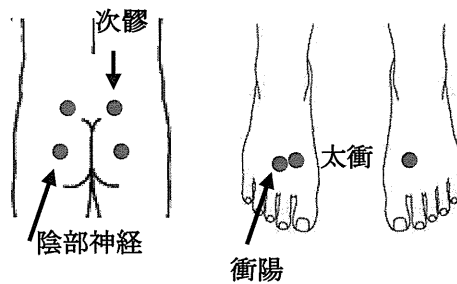
鍼治療介入してからオキシコドン塩酸塩(徐放性の錠剤)使用量軽減が認められ、本人から「退院後も続けたいです」と退院後の継続治療を希望された。また、この回より食事の際に込み上げてくるようなムカつきもあると話されたため、追加治療を行った。

切診:内関緊張、右足三里緊張、太衝表面緊張深部軟弱、太溪軟弱。

脈診:左尺中弦。

舌診:淡白、厚膩苔、足背軽度浮腫。

治療部位:陰部神経、次膠、太衝、右衝陽、左期門、右足三里、左内関、円皮鍼:左内関を使用した。



4診目

● カルテ

1時半、「今度ははやいなあ。2時間やな」(VAS:78mm)

4時、「痛いわ。寝てられへん」(VAS:78mm)

6時、「痛いわ」(VAS:78mm)

17時半、「薬飲んだで」

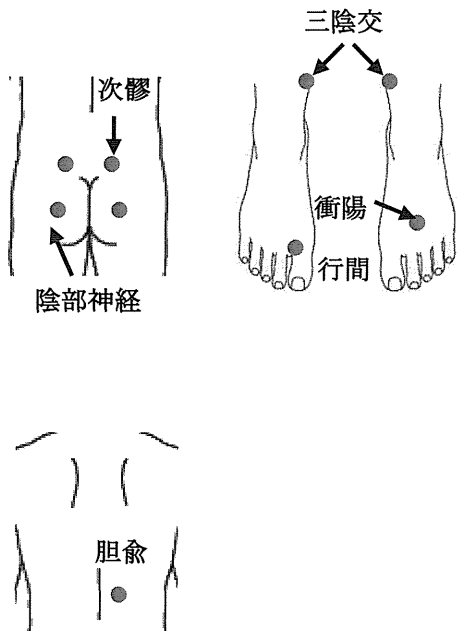
レスキュー服薬回数全7回(治療後3回)

- 鍼灸

「今日はちょっと痛いのを我慢して待っていました。ムカつきと痛みが同時に来る感じ。あと、夜中痒くなって、鍼をすると循環よくなって痒くなるんですか？首の裏を冷やしてもらったらスーと楽になりました」夜間は時々ズキズキと痛むこともあったとのこと。

脈診：洪、舌診：淡白、白苔。

治療部位：陰部神経、次膠、右胆兪、三陰交、右行間、左衝陽を使用した。



5 診目

- カルテ

2 時半、「さっき痛くて飲んだ」1 時半にレスキュー服薬されている。

4 時半、「飲んだ。(VAS)70 や！」

10 時半、「今はゼロや」

20 時半、「鍼してもらったけど、その時だけやな」

レスキュー8 回 (治療後 2 回)。

- 鍼灸

痛みの性質が重い痛みが消失し、ズキズキした痛みのみ。

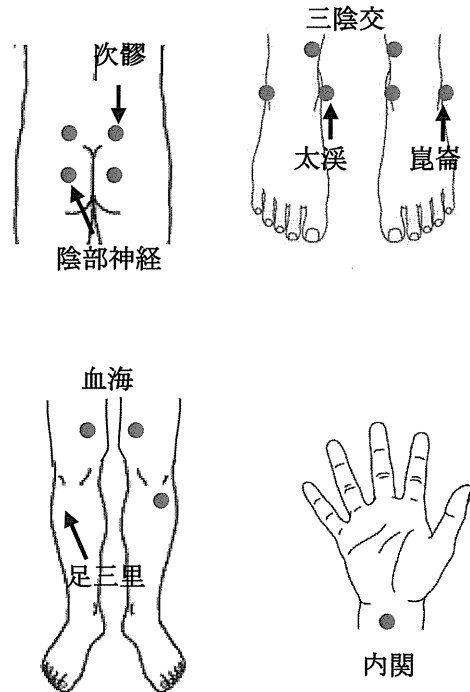
脈診：弦。

舌診：淡白、黄膩苔、舌下静脈怒張。

血瘀による痛みが強くなっていると考え、活血化瘀を中心とした治療を行った。

治療部位：陰部神経、次膠、血海、三陰交、太溪、崑崙、円皮鍼：足三里、右内関、三陰交。

患者 (家族含む)、医師、看護師、医療スタッフによるカンファレンスを行い、現在の微熱の原因はストーマに入れているカテ熱と考えられるため、退院後週 1 回の外来受診管理とし、その時に鍼灸を行っていくことになった。



5 診+1 日目

- カルテ

6 時半、「痛いんや」(VAS : 80mm)

9 時半、「下腹部の痛みあり」(VAS : 80mm)

昼に退院される。

昼までのレスキュー服薬回数全 4 回。

(0:30、4:20、6:50、9:30)

6 診目

- カルテ

痛みどめは 5~6 回/日。

退院前と変わらない。

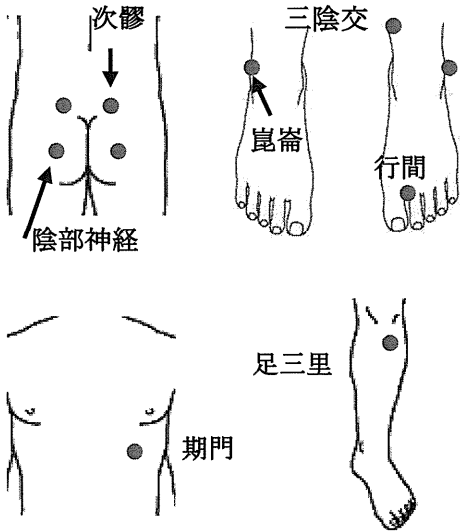
- 鍼灸

外来受診。退院後から 1 週間のレスキュー服薬回数は 5~8 回であった。患者本人からは「痛みは変わらず痛い。もう、味もしないから美味しいのかもわからなくなった。ムカつきも少しある」といわれる。

脈診：右関上・左尺中弦、左関上やや渋。

舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張少々。

治療部位：陰部神経、次膠、左期門、左足三里、左三陰交、左行間、崑崙を使用した。



7 診目

- カルテ

痛みどめ 5~6 回/日。先週と変わらず。

- 鍼灸

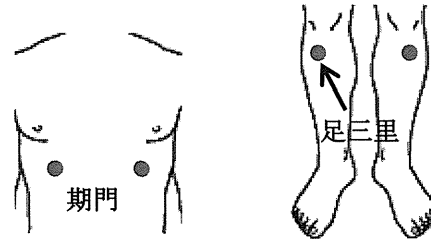
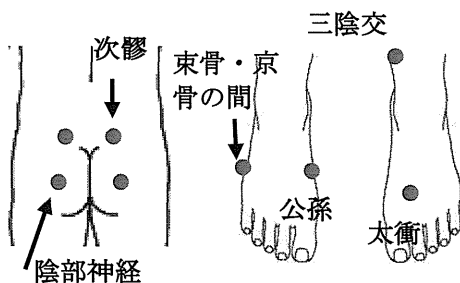
この1週間の痛みの平均 VAS ; 78mm。睡眠：痛みで目が覚めるため、あまり眠れた感じがしない。便：1日2回、2日1回、硬便・軟便など不順である。

脈診：右関上沈弦、左尺中弦。

舌診：紅舌、白膩苔。

食欲：「食事しているとムカついて無理矢理食べて、暫くしたら吐き気がする」とのこと。しかしながら、服薬または病気による嘔気ではなく、塩分制限（腎臓病食）→味が薄い→「味がしない」→「美味しくない」→無理矢理食べる行為によって、反射的に嘔気症状が現れているのではと考え、疏肝理気にて様子を見た。

治療部位：陰部神経、次膠、期門、足三里、右束骨・京骨の間、左太衝、右公孫、円皮鍼：足三里を使用した。



8 診目

- カルテ

レスキュー7~8回/日に増えている。

朝方に多いが、日中も増えている。

3時間おきに使用している。

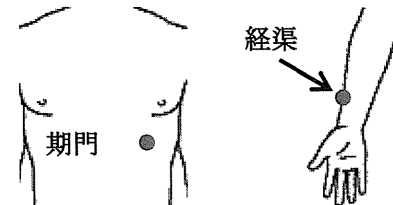
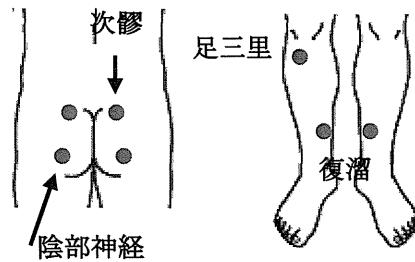
- 鍼灸

「痛みの変化はなく悪化もしていない、最近少し呼吸が苦しい時がある。今はそうでもない」とのこと。医師・看護記録より家庭内でのストレスが溜まっている印象を受けた。

脈診：虚（細）、沈。

舌診：淡紅、黄膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：陰部神経、次膠、左期門、右合谷、右経渠、右足三里、復溜を使用した。



9 診目

● カルテ

ディサービスのときは 11 時間もあいた。

レスキュー6～8 回/日。

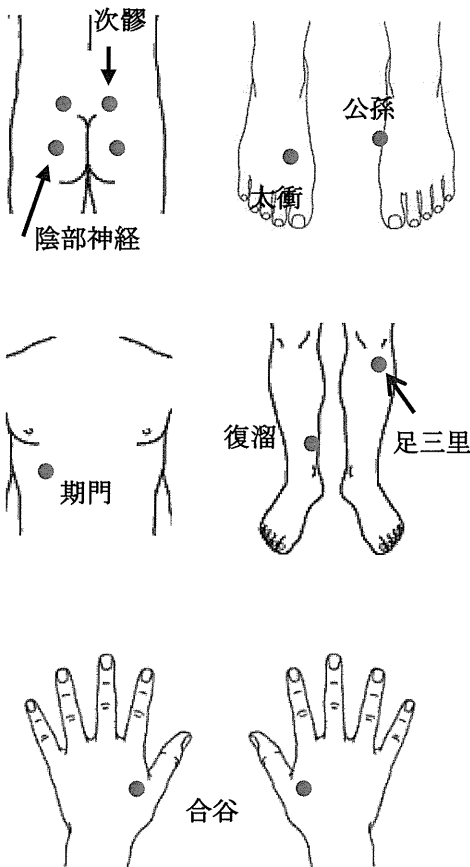
● 鍼灸

ディサービスに参加し、ゲームや多くの人と会話することが楽しく、痛みを 11 時間忘れていたとのこと。治療中、両手が震えていたため、確認すると「退院後からある」とのこと。

脈診：右関上滑、左尺中微弦。

舌診：暗淡紅、白膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：陰部神経、次髎、合谷、右期門、左足三里、右復溜、右太衝、左公孫を使用した。



9 診+11 日目

● カルテ

神経内科受診

痛み、嘔気について繰り返し訴えるも、原因は明らかではなく、心因性と考える。

10 診目

● カルテ

レスキュー7～8 回/日

「オキノームないと不安です」

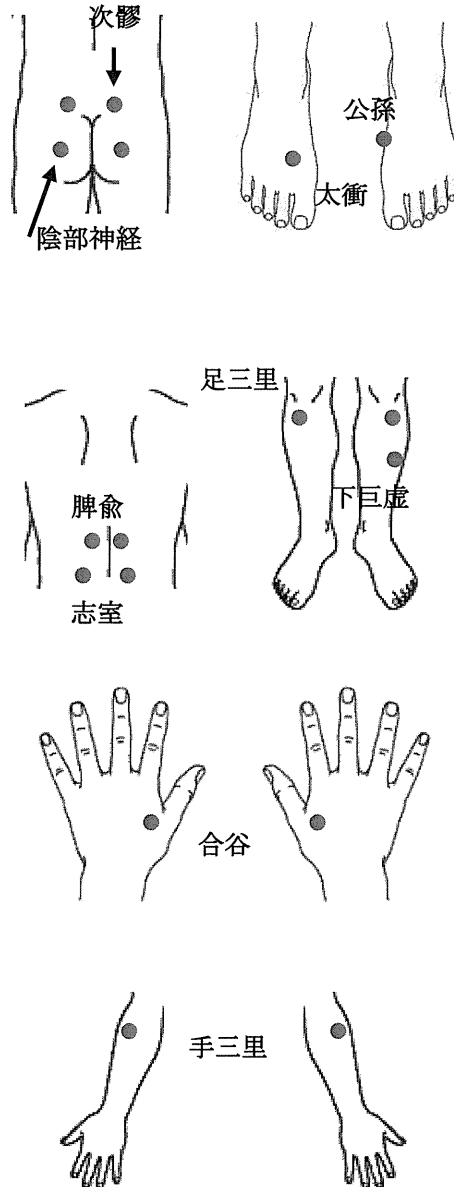
● 鍼灸

「最近ガスがよく出る」。夜間、痛みで起きることもあるが、まずまず眠れており、月曜日に友人と釣りに行く約束したと話されており、比較的調子がいいと印象をうけた。

脈診：右関上滑、左尺中微弦。

舌診：紅舌、右舌辺厚膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：<毫鍼>陰部神経、次髎、右足三里、左下巨虚、右太衝、左公孫、合谷、手三里、脾俞、志室、<e-Q>左足三里に行った。治療後、手の震え消失する。



10 診+11 日後

● カルテ

オキノーム足りないと、娘が来院。レスキュー服薬回数 8~9 回/日か？

オキノームにかなり依存している。近医への通院はしなくなったとのこと。

11 診目

● カルテ

「痛み変わらんね。夜はちょっと減ったかな？」

ここ数日は 5 回/日

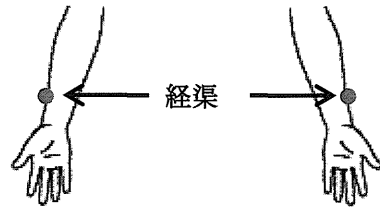
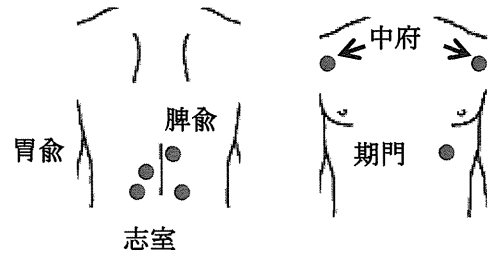
● 鍼灸

痛みはあまり変わらない、時々、呼吸苦があると訴える。しかし、娘から「息苦しいっていつてるけれども、こっそりタバコすったり、お酒飲んだり、家ではしんどそうでも外出する？って聞くと喜んでついてくるんです」と医師に相談があった。オキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）に依存傾向が認められる。医師との相談の結果、ディサービスなど、外出を増やしてもらうため、外来には 2 週に 1 回とし、あわせて鍼灸も同様にした。

脈診：滑。

舌診：紅、厚膩苔、舌下静脈怒張。

治療部位：〈毫鍼〉陰部神経、次膠、左肺俞、右脾俞、左胃俞、志室、経渠、中府、左期門、右足三里、行間、右公孫、〈鍚鍼〉隠白、〈円皮鍼〉右風門、肺俞を使用した。



12 診目

● カルテ

便秘時に会陰部の痛み増悪しているか。

● 鍼灸

2 週に 1 回のペースになったが痛みは変わらないとのこと。しかし、レスキュー服薬量は 1 週目 8~9 回であったが、外出を増やしたところ 2 週目 5~7 回と減量が認められた。本人に確認したところ、「誰かと会って話しているときは痛みが感じない」とのこと。

13~16 診目は 3 週に 1 度のペースで行っていたが、17 診目以降は 4 週に 1 度となった。

鍼灸治療は気持ちいいということもあり、今後も継続治療となった。レスキューの使用回数はディサービスの日には 4~5 回、それ以外は 7 回使用していた。

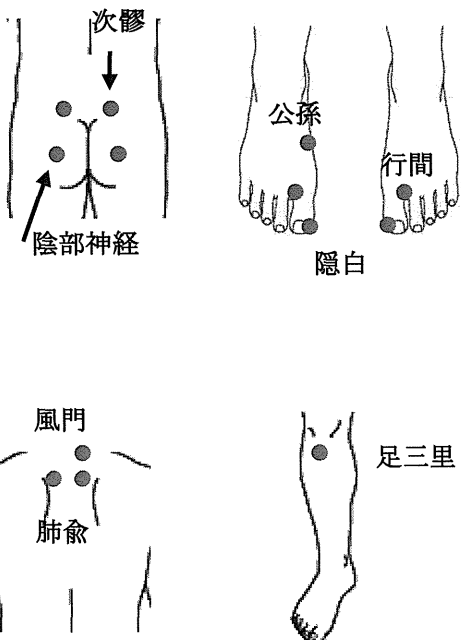
【転帰】

鍼灸治療 5 診目翌日で退院。以後外来にて鍼灸治療を行っており、現在治療回数 14 回行っており、2 週に 1 回、3 週に 1 回と治療間隔をあけても、レスキューの使用回数が 6 回/日と安定してきた。今後も継続予定である。

【まとめ】

本症例はオキシコドン塩酸塩（徐放性の錠剤）を使用するも一時的軽減のみで、使用回数が軽減しないため、鍼灸治療を開始した。

1 診目には著効が認められ、7 時間以上経過していても痛みを訴えることはなかったものの、2 診目より少しずつ元に戻りだした。入院後には、6~8 回に急激に回数が増量し、呼吸苦を訴えるが、患者・家族コ



メントから、デイサービスにいる間（7時間近く）は痛み、呼吸苦がないとのことだった。

そこで、家にいる時間を減らしてもらうことで、使用回数は減少した。

患者自身は「変化はない」と毎回答えるが、様子を見る限りでは、呼吸苦は安定し、「痛み」に注目しなければ痛みを感じない程度まで緩和されていると考えられた。

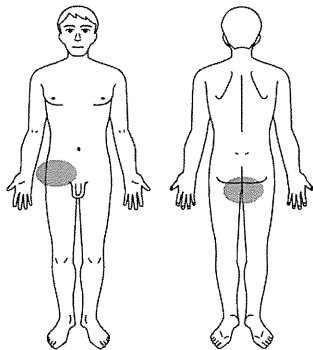
また、途中より手のふるえに対し、治療を開始したところ、3回でふるえは消失。これは患者自身も認めていることから、著効があったといえる。しかし、レスキュー服薬回数が6回から軽減しない理由には患者自身も「家庭内でのストレスがあり、イライラすることが多い」と言っており、また、裏付けるようにデイサービスに行く日は4回と軽減していることから、根本的なストレスが解決されない限り、これ以上の軽減は難しいのではないかと推測される。

【症例】62歳、男性

【傷病名】「大腸癌」、「骨盤内リンパ水腫」

【治療目的】「肛門痛」、「右股関節痛」

肛門に重だるい痛みがあり、鎮痛剤を使用したが、どれも副作用による嘔気が苦痛であったため、肛門痛および、右股関節痛緩和を目的に開始した。



【既往歴】

胆石症、高血圧症、進行性大腸癌、胃癌

【現病歴】

X-1年1月、昼に心下部の痛みを自覚。

5月、腹部膨満感に加え、下腹部の痛みを訴え、受診した。精査の結果、大腸癌、閉塞性腸閉塞と診断された。6月、人工肛門造設。放射線療法(1.8Gy×25)、TS-1(120ml/body)。

7月、大腸内視鏡検査にて脾湾曲部の1/4周堤隆起を伴う進行性の胃癌と診断された。

外来受診にて経過観察していたが、鎮痛剤を使用すると副作用が強くなり、患者本人は痛みがあるが服薬に抵抗を示したため、外来受診の際、鍼灸併用治療を依頼された。

【所見】

問診を始めると「(肛門が)痛い!痛い!」と声をあげ、「するなら早くしてくれ!」と言われたため、十分な問診できず。

疼痛部位:右股関節の疼痛部位は鼠蹊部中央を中心に特に肝経、胃経に痛みがある。

切診:左内関緊張、右足三里～上巨虚硬結、太溪軟弱。

脈診:滑脈、腎の弦。

舌診:舌尖紅、白膩苔(左剥落)。

睡眠:22時～3時まで。(5時間強)。

便通:(パウチに)出ているが残便感がある。

【東洋医学的弁証】

腎陽虚、右足陽明経筋病、

津液停滞、気滞

【方法】

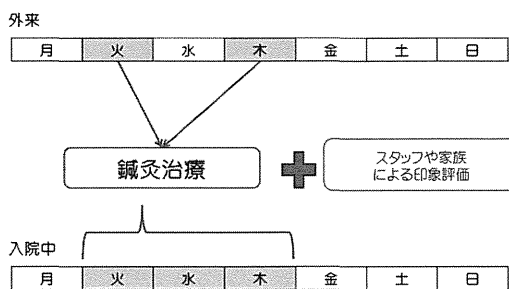


図1. 治療の流れ

外来治療は1～2診目(火曜、木曜)にて行い、5日後、発熱のために入院されたため、3～5診目は病棟にて治療を行った。治療時間は、患者負担のかからないよう、10分程度の治療を行った。

【評価方法】

治療前後にVASで聴取。不定期にスタッフによる印象評価、VAS評価をカルテより抜粋。患者本人のコメントを印象評価の一つとした。

【使用鍼具】

毫鍼:セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度、陰部神経付近を目標に陰部神経には直径0.25mm×90mmを85mm刺鍼で行った。

円皮鍼:セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用。鍍金は補法を目的に金製、瀉法を目的に銀製を使用した。

【評価】

痛みをVASで評価。客観的印象評価として医師、医療スタッフのコメントをカルテより抜粋した。

【経過】

①肛門痛

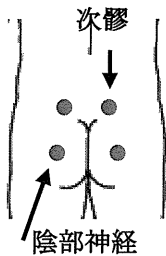
1診-1日目

●カルテ

「薬は飲んだら1日吐き気と頭痛がした。肛門とお腹の痛みは金曜の半分くらいになった。その代わりに、右股関節が痛くなってきた。足の浮腫みも引いた。眠るのは4～5時間くらいから、まあまあかな?」

肛門痛に対しては下記の部位を治療部位とした。

治療部位:陰部神経、次膠を使用した。



1 診目

- 鍼灸

お腹から肛門にかけて圧迫された感覚がある。便通もちゃんと出ているのに、溜まった感じがある。

睡眠：3時過ぎに起きて、それからずっと起きている。

切診：左内関緊張、右足三里硬結、左上巨虚緊張、太溪軟弱、右太衝緊張。

脈診：滑、腎弦。

舌診：舌尖紅、白膩苔（左舌辺剥落）

1 診+1 日目

- カルテ

座位時に肛門痛あり。足の付け根の痛みマシになったとのこと。

トラムセット内服にて症状軽減。

「チクチク痛いけど、鍼効いている気もする。足の付け根のところ痛かったけど、鍼してから、股関節から動いた感じ。

肛門の痛みに聞く鍼はちょっと難しいらしいわ」（肛門痛

NRS：1、肛門痛 NRS：10）

2 診目

- カルテ

トラムセット1日2回使用だが、2回目になると嘔気が出現する。

- 鍼灸

「肛門痛はちょっとマシになったようだけど、1時間くらいしたら元に戻った」

脈診：腎弦。

舌診：淡白舌、白膩苔、舌下静脈怒張。

睡眠：3~4時間程度。

便通：良好。

2 診+2 日目

- カルテ

普段と比べ、新しい症状も増悪していない。「鍼してもらった

その日は少し楽になるけど、すぐに痛くなる」

2 診+3 日目

- カルテ

「ズキズキいたい」

12時半、「痛みは少しマシ、頭が痛い」

19時、ストーマの下方に圧痛あり。肛門もジリジリといたむ。

2 診+4 日目

- カルテ

7時、ストーマから肛門にかけてズシーンとした痛み（NRS：10以上）。鎮静剤の希望はない。

9時、ストーマ周辺の痛みだいぶ良くなった。肛門の周りはまだある。

3 診目

- カルテ

突発的発熱により、入院。

7時半、肛門部痛あり。1時間おきに目が覚めた。

23時、頭痛あり。

- 鍼灸

「ドーンとした激痛や」

座位時に特に強く感じる。

肛門痛は、ズキズキした痛み+ズーンとした重だるい痛みの2種類が混合したような痛みとのこと。

切診：左胆経緊張、足陽明経の熱感あり、右章門緊張、右期門圧痛、左合谷緊張、右後溪緊張、左行間圧痛。

脈診：脾弦、肝・腎無力。

舌診：淡紅舌、白膩苔、舌尖紅。

睡眠：トイレのために1時間おきに目が覚めた。

4 診目

- カルテ

7時、「鍼灸治療後一瞬よくなるんだけど、痛みかわらん」

9時半、「おしり圧迫すると痛い。何とかしてもらわな、厳しいのかな？MAX痛い」

ゲームしながら言われる。

11時、肛門痛 VAS：100mm、腹部痛 50mm位におさまっている。

「痛み止めはのまない。吐き気と関節痛、悪影響ばかりだから」